

1988	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
3	•	•	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31	•	•	

● 毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

備える。

準備。予備。整備。装備。守備。警備。
 そなえる…用意する、そろえる、用心する
 防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
 そなえ…したく、用意、警戒、防衛
 備品。設備。備畜。備員。備考。備忘。
 そなわる…準備ができる、身に付く
 ……ソナエ アレバ ウレイナシク



かわさき
 防災広報紙

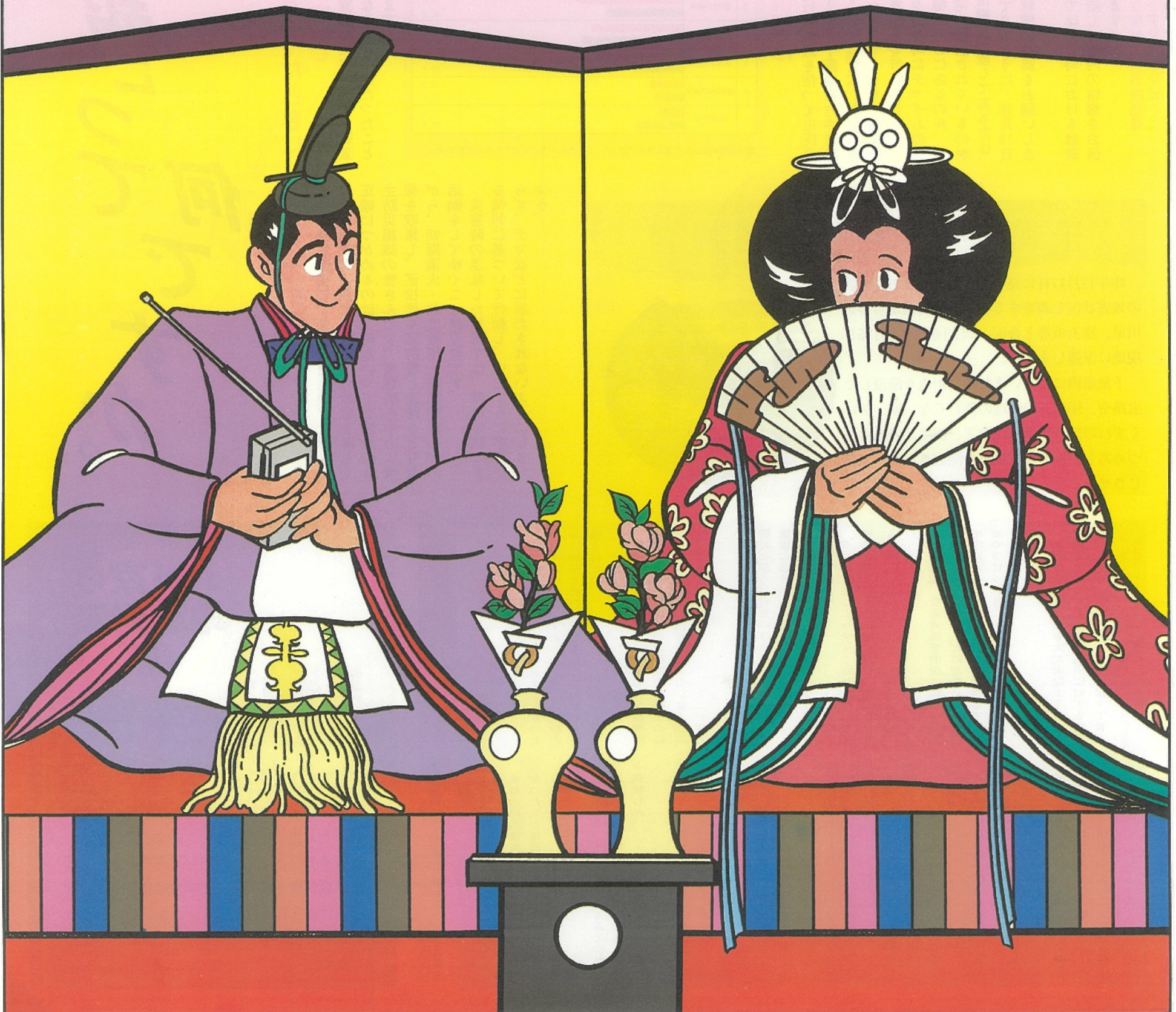
NO.

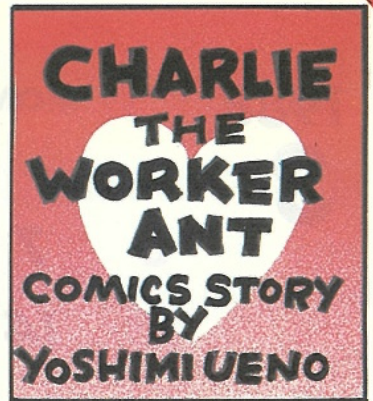
43

昭和63年2月29日発行
 発行●川崎市
 編集●土木局防災対策室
 〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
 TEL (044)200-2111内線2841

見えない命綱。

1台の無線受信機が尊い命を救う。それは海の上だけの話ではありません。
 例えば地震によってライフラインを切断された家屋は、木の葉のように荒海をさまよう船と同じ。
 見えない電波が刻々と送る情報だけが頼りです。
 地震が発生して、テレビや電話が使えなくなった時のために。
 携帯ラジオの点検や同報無線屋外受信機の位置確認を事前におきましょう。
 また災害時の情報はどこから得られるのか、そのルートを知っておくことも必要です。





信頼でききる情報って何ですか。

●地震直後のテレビ・電話は

宮城県沖地震(5.6・12)のとき、電気が完全に復旧するまでに2日、電話が平常にもとるまで3日かかっています。また、日本海中部地震(5.8・5・26)のときは、電気は1日、電話は6日で復旧しています。

この2つの地震とも、被害の中心地域における震度は5で、揺れの程度はほぼ同じでした。昨年12月17日の千葉県東方沖地震のときにも、千葉市内を中心に30万世帯が1時間間わたって停電し、電話も千葉、東京など関東地方で電話が殺到し、極めてかかりにくくなりました。



●地震がおさまったときに心配だったこと

2つの地震のあと実施したアンケート調査によると、次のようなことが心配だったこととしてあげられています。

項目	日本海中部地震	宮城県沖地震
1 家族の安否	60.3%	68.2%
2 停電の発生	44.7%	50.3%
3 建物の損壊	44.6%	32.9%
4 火災の発生	37.6%	42.8%
5 津波の発生	20.8%	22.2%
6 食料品の確保	14.3%	13.0%
7 交通マヒ	11.0%	20.0%

資料は川崎市防災会議地震専門部会「川崎市の震災予防に関する調査報告書」から

●川崎市の情報は

川崎市では、防災行政無線を使って市民の皆さんに情報を流します。千葉県東方沖地震のとき、本市は震度4程度の揺れでしたが、市内の一部で電話がかかりにくくなり、防災行政無線により情報収集伝達を行いました。

市民の皆さんは、夕方5時にチャイムの流れる無線の屋外受信機はどこにあるのか、戸別受信機はどこのお宅に設置されているのかの確認、また戸別受信機を設置してある方は、災害時に確実に受信できるように、毎月15日の放送を聞いて受信状態の確認をお願いします。

その他に、川崎市では災害時における放送協定を次の4社と締結し、市内の情報をお伝えするようにしています。

- ラジオ日本
- FM横浜
- NHK横浜放送局
- TVKテレビ

●私たちの町では

地震発生直後に、火災の発生や、ケガ人の状況、建物の破損など、町内の被害を詳しく正確につかめるのは、何といっても地元自主防災組織の皆さんです。情報班を中心に情報を収集し、区役所や消防署と連絡をとりながら、初期消火・救出救護・避難誘導などの活動をしていくことが必要です。

災害時の混乱した状況では、特に信頼できる情報に基づいて行動し、いたずらに不安がらず、デマなどに惑わされないようにしましょう。

千葉県東方沖地震調査

昨年12月17日に発生した千葉県東方沖地震の被害状況を調査するため、川崎市から神奈川県、横浜市等と合同の調査団を、1月25日現地に派遣しました。

千葉県内には、いまだ亀裂が走り陥没した道路や、屋根瓦の修理の終わらない家、がけくずれの恐れがある山など、震度5の地震のつめあとが残され、被害の深刻さを改めて感じさせました。



災害現場を視察する調査団(千葉県成東町津辺)

わが家の地震対策 ⑥

家族がはなればなれになったとき

お父さんは会社、子供たちは学校で家にいないとき地震が起こると、まず心配になるのは家族のことです。電話が不通で連絡がとれない場合などを考え、家族の帰りを待っていて逃げおくれることがないよう、あらかじめ家族が集まる場所や連絡方法を決めておきましょう。

体験談 43

市民の声

防災にひとこと

●宮城県沖地震で、火災の発生がなかったのは不幸中の幸いであった。今回の経験から地震発生後の状況を考えた防災体制を整備されたい。(北山3丁目)

●あれだけの被害で、物価も安定し混乱もなかったことは仙台市民の誇りだ。(長町1丁目)

●仙台育ちは、地震を少し甘くみていたのではない。非常時出し、避難訓練の必要を痛感した。(南小泉2丁目)

●初めての体験なので毎年記念日をもうけて、市民が常に災害をわすれないようにしてほしい。緑ヶ丘地区に対しては、初期段階からよく対処されたことに対し、敬意を表する。(緑ヶ丘1丁目)

●市の災害援護資金を申し込んだところ、手続等親切におしえていただき早目に貸し付けがうけられた。(遠見塚3丁目)

●怪我をして病院に行くのに、交差点で1時間以上ストップした。救護所を各所に。(荒井)

●被害情報、交通情報を市民に知らせしてほしい。NHKニュースだけが頼りだった。市役所からの放送システムを完備して、支所やブロック毎に正しい情報を流してほしい。(土手内)

●どんな地震が来ても大丈夫なように、市が中心となって大地震の防災に対する指導を。(八本松1丁目)

●老人と子供に対し、防災について学校での指導や老人には社会教育の面でもっと手をさしのべてほしい。(六十町)

※宮城県沖地震 昭和53年6月12日午後5時14分発生 震源：宮城県沖 マグニチュード7.4、死者27人、負傷者1227人、建物全壊651棟